

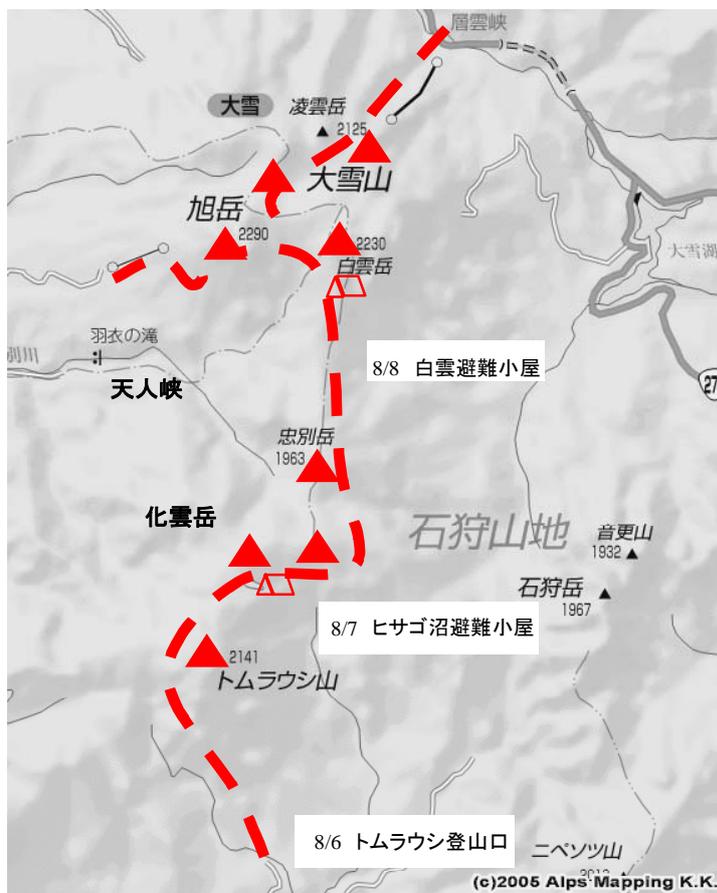
05年夏山合宿報告書

大雪山系 [トムラウシ山～旭岳]

05/8/6-10

メンバー

CL：竹内幹雄、SL：芦田直之、藤田健治、大矢康裕、長島博美、渡辺勝利
本隊=大矢氏以外



[本隊、大矢] 8月7日 晴れのち曇り、霧時々雨

3:30	起床	10:35-55	間違えてトムラウシ分岐にでる
4:25	トムラウシ登山口出発	11:25-45	トムラウシ頂上
5:45	カムイ天井通過	15:15	天沼の横、木道
8:35-50	前トム手前、岩場	16:15	ヒサゴ沼避難小屋着

装備漏れのため4~5人用テント一個で皆で寝た&朝食抜きで出発。ぬかるみとやぶとやぶ蚊の中を進む。カムイ天井から道がぬかるみからやぶに変わる。沢沿いを進む。川の水は冷たくすがすがしい。沢を右へ折れた辺りから雪渓が始まる。雪渓後、岩礫。花もたくさん見られるようになる。急登。ガスが濃くなってくる。キャンプ場の分岐では地元の人が水場の水を飲んでいて。トムラウシ登頂。メンバーと熱く握手を交わす。霧がさらに濃くなる。岩場もさらに陰しくなる。雨が降り出す。途中痛めた芦田さんのひざが、忠別岳避難小屋までもたないというので、目的地をヒサゴ沼避難小屋へ変更する(13:30)。霧と雨の中、踏み跡を頼りに進むが、踏み跡がなくなり戻る、進むを繰り返す。雨がやみ自分たちの位置が、考えていた地図上の位置より手前であることを発見する(15:15)。霧と雨の中での先輩たちの判断力や行動力は、見習うことが多く非常に勉強になった。ヒサゴ沼避難小屋まで、踏み跡を追いながら雪渓や岩場の中を行き、16時15分ようやく着。夜はコンデンスミルク、ちらし寿司、たまごスープ、白玉団子あんみつなど豪華に頂き、一日の疲れを癒した。見たことのない雄大な自然の姿や高山植物の出迎えに感動した一日だった。(長島記)

[大矢] 8月8日 晴れ

3:00	起床	8:20	第一公園
4:40	ヒサゴ沼避難小屋出発	10:00	天人峡着
5:40	化雲岳	16:15	札幌

3:00 起床。夜中に冷え込んできたので、もしやと思っていたら、案の定今日は良い天気になりそうだ。昨日の進み具合と、コースタイムが当てにならないことから、私は旭岳を断念し、化雲岳から天人峡に下りることにする。日頃のトレーニングと、2週間前のポッカトレで、体力的には自信がある。しかし、初日の余りにも遅いペースに惑わされ、このコースを自分のペースならどこまで行けるかという距離感覚が全くつかめなかったのと、行ってしまうとエスケープルートがないので、やむを得ない判断と思う。神様が、また大雪に來いということか…。トムラウシと同じく、心から願えば思いは叶うと信じよう。ヒサゴ沼から雪渓を登ると、前方の稜線の向うから旭岳が姿を現した。心軽やかに登り詰めると、程なく化雲岳に着く。見覚えのある化雲岳のピークから振返るトムラウシは、雄大の一言に尽きる。思えば14年前にこれを見てしまったから、また今日ここに來ているのだ。大雪に向う仲間と固い握手を交し、一人天人峡へ向う。最初、一気に下りてしまう予定であったが、花の写真を撮りながら下りているうちに、1300m 付近の第一公園から眼前に仰ぎ見仰ぎ見る旭岳の姿に感動し、一本取って雲が切れるシャッターチャンスを待つ。この辺りの湿原は、お花畑が綺麗だ。前に來た秋の時には何もなくて、どこが公園なのか分からなかったが、今日来て得心。ここからクロカンのように気持ち良く飛ばして、10時天人峡着。バスが11:15なので温泉はあきらめ、一人ビールで乾杯!! 今回の成果を祝す。(大矢記)

[本隊] 8月8日 晴れ

3:00	起床	9:15	忠別岳
4:40	ヒサゴ沼避難小屋発	10:30	分岐手前休憩
5:40-6:10	化雲岳	12:00	高根ヶ原分岐
7:05	五色岳	13:30	白雲岳避難小屋着
8:10	忠別岳避難小屋分岐		

テントが狭く昨夜は渡辺・大矢の 2 人に小屋で宿泊してもらう。うって変わった好天気です。小屋左手の雪田を登りつめ分岐点に出ると大雪連峰の全山が視界に入ってくる。化雲岳の頂上では昨日のトムラウシ山のピークから縦走路を目で追い、旭日岳や南方の十勝岳さらには石狩岳の眺望に時のたつのを忘れてしまう。ここで、途中下山大矢の健闘を祈りつつ二手に分かれ五人は縦走路を北上する。五色岳で一本とり、高山植物の豊かな道筋では忠別岳避難小屋からの多数の登山者とすれちがい入山者の多さに驚く。雪田の雪解け水が豊富で沼や池塘の多さとスケールの大きな自然に酔いつつ長い木道を進む。起伏の少ない淡々とした上り下りを繰り返すとやがて前方に白雲岳が迫ってくる。斜面の中腹辺りに今晚の予定地白雲岳避難小屋が現われると五人のピッチが一段と上がり余力の確かさが頼もしい。時間的には少し早いですが良く整備された幕営地に設営、水場とトイレの利用方法を管理人から説明され環境問題と真剣に取りくむ北海道の姿を再認識しつつ自分たちの行動にも戒めたい。(藤田記)

[本隊] 8月9日 晴れ

2:15	起床	10:10	北鎮岳分岐
4:30	白雲岳避難小屋発	10:35-40	北鎮岳
5:50-6:00	北海岳	10:50-11:10	北鎮岳分岐
6:45-7:00	間宮岳	11:30-11:50	お鉢平展望台
7:45-8:10	旭岳	12:45-13:30	黒岳
9:00-9:20	間宮岳	14:30	リフト乗り場着

早々と白雲岳避難小屋を出発。雪解けの小川に沿って少し登り、雪渓を越えると、行く道が連なる丘の上にはずっと見える。軽い傾斜を登り、白雲岳に着く（ここに層雲峡から我々と同じ旭岳を目指すと言うカナダ人男性がいた。白雲岳幕営地でもそうだったが、旭岳周辺には外人が多い。）左手にトムラウシを眺めながら、間宮岳に着く。標識にはここが間宮岳頂上であるとは明記されていないが、周囲の状況からそれは明らかだ。ここに荷物を置き、旭岳へのピストンとなる。しばらく緩やかに下ると、硫黄のにおいがしてくると同時に、旭岳が眼前に迫る。そのふもとは幕営地でもあり、数張の幕営が見られる。旭岳は、下半分が雪渓となっており、それを過ぎると、富士山のように火山特有の砂利が滑りやすくなっている。頂上に着くと 360 度のパノラマ大展望が広がり、トムラウシ山、旭岳温泉

の硫黄が立ち上るのが見える。(ここは携帯電話の電波受信状況がよく、通話やメールが可能。) 間宮岳に戻るべく砂利を気をつけて下りていく。(途中、今朝隣のテントにいた中年女性がすれ違いざまに、「朝 2 時に起きて静かに準備を始めないのは非常識」と毒づく。) 荷物もなく、谷が安全であることから、私だけ雪渓でシリセードを楽しむ。(しかし、このときしりポケットから財布が落ちようとは、知るよしもなかった!) 間宮岳に戻り(ここで東工大の若者たちと再会する。)、北鎮岳を目指す。しばらく行くと右側にお鉢平が見えてくる。軽装でお鉢巡りのトレッキングを楽しむ者がよく目につくようになる。北鎮岳まで往復 30 分のピストンの途中、佐溝兄弟に会う(北鎮岳への分岐で私は財布がないことに気づいた。) お鉢平の展望台まで来るといよいよ終盤。雪渓は、赤く着色された雪に沿って下る。石室で学生たちと別れると、日差しが暑くなる(ここまでは汗が出ないほど涼しかったのに)。黒岳に着くと、家族連れでゴった返しており、テレビカメラまで来ている始末。45 分休憩後、人の多い階段を下り、リフト乗り場に着く。リフトとロープウェイを乗り継ぎ、層雲峡温泉に着く。夜は、源泉掛け流しの風呂、豪華な食事、冷えたビールと酒、佐溝兄弟との対話を楽しんだ。(芦田記)

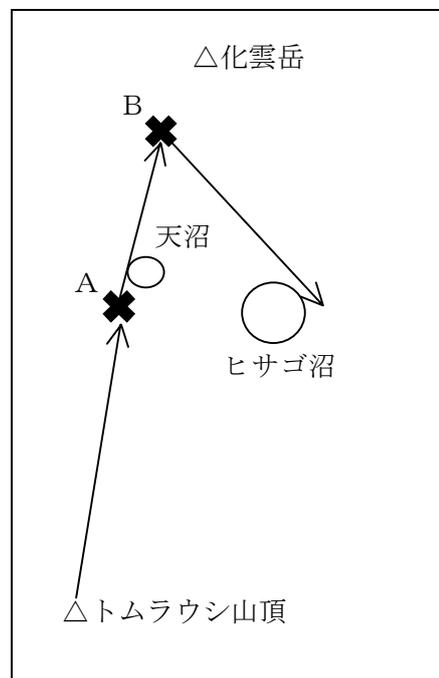
道迷いについての報告

状況

8 月 7 日 11:45 ごろ、われわれはトムラウシ山山頂を出発し、化雲岳方面へ北上中、13:30 ごろ、天沼より 800m 南の地点 A(北緯 43 度 32 分 40 秒、東経 142 度 51 分 8 秒)に到着した。しかし、われわれは地点 A を、ヒサゴ沼方面へ南東に進路を変えるべき地点 B(北緯 43 度 33 分 19 秒、東経 142 度 51 分 21 秒)と誤認した。そのため、地点 A 付近で存在しない南東方向の進路を探すこととなり、1 時間半をロスした。

原因

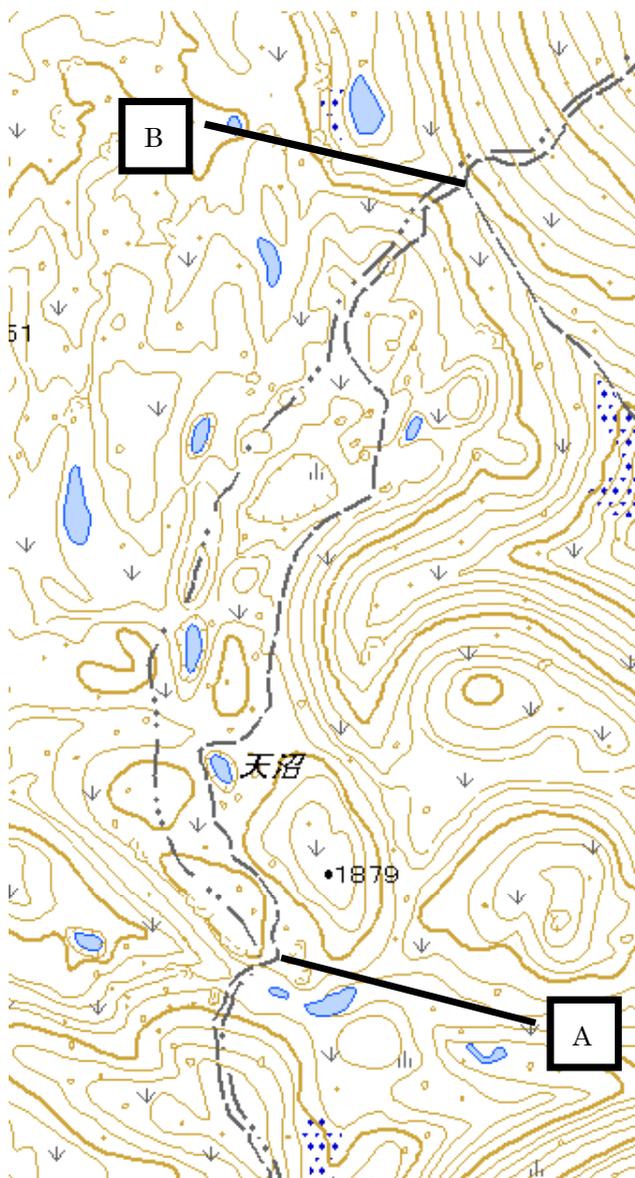
1. 地点 A と地点 B の地形がよく似ているうえ、当時、霧で覆われており、目標物(化雲岳やヒサゴ沼など)が見えにくかった。
2. 地点 A において、われわれはトムラウシ山から相当長く歩いてきており、地点 B まで来ているような感覚があった。



3. 「北海道には分岐に標識があるとは限らない」と思い込んでいたが、そこまでに重要な分岐には標識が必ずあった。
4. 6名のメンバー全員による、複合的判断ができなかった。このルートを決めた者が5名。地図を持っていた者が3名、うち2万5千分の1の地図を持っていた者は1名。読図の基本を知らない者が2名。

対策

1. 迷ったと思ったら、周囲の地形を子細に地図と見比べ、落ち着いて現在地を特定する。必要に応じて偵察を出す。
2. 歩いた長さを現在地特定のための主な材料としてはならない。また修正図のコースタイムは参考に過ぎない。
3. ルートの特徴や標識の設置状況を事前に把握しておく。
4. 地図とコンパスは必携のこと。修正図だけでは細かい地形がわからないので、道迷いリスクの高い場所に行くときは、2万5千分の1地図を各自持つ。読図能力を身につける。



芦田記

総括

計画

年度計画から8年ぶりの北海道となった。例年、夏合宿は参加者が少ない傾向にあるが、最終的に6名の参加で新人からベテランまで幅のあるメンバーとなった。合宿に向けて、各自トレーニングを兼ねた山行を積んで来て、有意義に合宿に挑むことができた。

行動

第一日目のトムラウシの登りに時間がかかった。午後からガスが出て視界が悪くなり、その後一時雨降りとなり、歩行もペースダウン、現在地を間違っただけで判断した為、ヒサゴ沼避難小屋の分岐を探すのに手間取ってしまった。(思い込みによる判断をしてしまった。) 二日目以降はペース良く進み計画通り進めることができた。

ルート

トムラウシ登山口からトムラウシ山までは長い登りだが、登山者が多いのに驚いた。そこから旭岳までは緩やかなアップダウンを繰り返しながら進んでいく。途中、ヒサゴ沼避難小屋手前では残雪の斜面をトラバースするため、足元に注意しながら進む。全体として各要所には分岐の標識があるが、途中は何も無いので、ルートを外れないように注意が必要だ。広い原野を歩くので視界の利かないときは注意したいところだ。山が大きいのでか目の前で見えているのにたどりつくのに思ったより時間がかかる。

装備

ガスカートリッジを現地調達で進めてきたが、7月に確認した店が8月に入って販売をやめていたのは誤算であった。急ぎよ、スポーツ店にタクシーで買いに行くことになってしまった。使用量は天気が良かったこともあり 1 缶半余った。平地合宿で共同装備の確認ミスによりテントとポールを部室に置いたままにしてしまった。計画は 2 セットだったので残りのテント1セットとフライでしのぐことになった。

食糧

色んなメニューで、おいしくいただくことができました。デザートがたくさんあって一日の疲れもとれるみたいです。つまみがちょっと多かったのももう少し減らしてもよかった。

謝辞

最後になりますが、留守部員の方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。全員、無事下山することができました。ありがとうございました。

竹内記
以 上

会計報告 (トムラウシ～層雲峡メンバーの会計)

収入(一人当たり)		支出		一人当たり
会費	¥ 88,900	航空運賃・宿泊代×5	¥ 419,400	¥83,880
		JR運賃×5	¥ 25,100	¥5,020
	¥ 4,500	タクシー(ジャンボ)×6	¥ 21,860	¥3,643
		タクシー・ガスカートリッジ×6	¥ 5,009	¥835
		雑費×6	¥ 132	¥22
	¥ 8,150	食料×5	¥ 11,000	¥2,200
		テント場×5	¥ 1,000	¥200
		リフト・ロープウェイ×5	¥ 6,750	¥1,350
		バス・レンタカー×5	¥ 22,000	¥4,400
	合計	¥ 101,550	合計	¥ 512,251